

Mikasa

ブロックプレート

MVB-85

取扱説明書

三笠ブロックプレートをお買い上げいただき
ありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みにな
り、正しく安全にお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



三笠産業株式会社

401-01504

目 次

1	はじめに	2
2	機械の用途、危険性の警告、構造及び動力伝達	2
3	安全マーク	3
4	安全のための注意事項	3
4.1	一般的な注意事項	3
4.2	給油中の注意事項	4
4.3	使用場所、換気に関する注意事項	4
4.4	作業中の注意事項	4
4.5	リフティング時の注意事項	5
4.6	運搬及び保管に関する注意事項	5
4.7	整備上の注意事項	5
4.8	ラベルの取り付け位置図	6
4.9	安全ラベルの絵文字説明	6
5	概観図	7
5.1	概観寸法図	7
5.2	コントロール装置位置及び装置名称	7
6	仕様	8
6.1	本体	8
6.2	エンジン	8
7	運転前点検	8
8	運転	9
8.1	始動	9
8.2	運転	10
9	停止	11
10	手入れと保存	11
11	定期点検と調整	12
11.1	各部点検、保全スケジュール表	12
11.2	各部点検、保全作業内容	12
12	トラブルシューティング	13

1. はじめに

- この取扱説明書は、ブロックプレートの正しい取扱方法、簡単な点検および手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業をすすめるために、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
- お読みになったあとも必ずお手元に保管し、分からないことがあったときには取り出してお読みください。
- エンジンの取扱いに関しては、別紙エンジン取扱説明書を参照してください。
- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアルおよび修理に関しては販売店、当社各営業所、もしくは三笠部品サービスセンターにお問合せください。
又、パーツリストに関しては三笠ホームページ <http://www.mikasas.com> の三笠 WEB パーツリストにても掲載致しております。

この取扱説明書に記載されているイラストが、設計変更等により一部実機と異なる場合があります。

2. 機械の用途、危険性の警告、構造及び動力伝達

【用途】

歩道、公園、広場等の路面に敷き詰めたインターロッキングブロックの表面の凹凸を機体の重量と振動で平に仕上げるためのプレートコンパクターです。4本の硬質ゴムロールが転がりながらインターロッキングブロックに振動を伝え表面の均しを行なうので、インターロッキングブロックの表面を傷つけ難く機体の操作も楽に行なえます。インターロッキングブロックは一個のブロックに2本のロールが乗るサイズが適当です。

【誤用途、誤使用の警告】

敷き詰めたインターロッキングブロックの表面を平に均す用途以外の作業に使用してはいけません。急傾斜地での作業は万一手を離れた場合、機体暴走の危険がありますので使用してはいけません。敷き均しを早める為、機体の上に重しを載せて作業をしてはいけません。機体を破損させる恐れがあると共に、機体のバランスが崩れ重しが落下飛散し思わぬ危険の恐れがあります。人を乗せて作業をしてはいけません。身体が大きな振動を受けると共にバランスを崩しロールに挟まれたり、踏まれたりして思わぬ怪我を受ける危険があります。一個のインターロッキングブロックが大き過ぎたり重過ぎる場合又は、十分に締固まった路面での運転は機体の振動が大きくなり、機体の損傷を早めると共にハンドル手許の振動も大きくなり長時間の作業は振動病の危険があります。

【構造】

エンジンベースの上面は、遠心式クラッチが出力軸に付いたエンジン、ハンドル、ベルトカバー及びガードフックを固定して、機体上部が構成されています。機体下部は、鋳物製フレームの前部上側に起振体が、下部に4本のゴムロールが回転自在に取付けられています。機体上部と機体下部は4個の防振ゴムで連結されており、機体上部の遠心式クラッチと機体下部の起振体のプーリー間は、Vベルトが動力を伝達しています。起振体は、Vプーリーが取付けられた振子軸に、偏芯振子がベアリングを介して回転自在に取付けられています。

【動力伝達】

原動機は4サイクル単気筒空冷ガソリンエンジンです。エンジンの出力軸には外周にVプーリーがある遠心式クラッチが取付けられています。エンジンのスロットルレバーでエンジン回転数を上げることでクラッチが繋がりVベルトを介して機体下部の起振体のVプーリーを回転させると共に、エンジンの回転数を所定の回転数に変換し偏芯振子を回転させ振動を発生させます。起振体から発生した振動はゴムロールに伝わり、インターロッキングブロックを振動させます。

3. 安全マーク

本書は MVB-85 型ブロックプレート of 取扱い方法について説明しています。本取扱説明書をお読みの上、内容を十分に理解された上で、安全に作業していただくようお願い致します。

本取扱説明書に記載されている ⚠マークおよび機械に貼付けてある安全ラベルは、警告サインです。安全上、必ず厳守してください。

⚠の各安全マークは、それぞれ次の意味を表します。

⚠ 危険 指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険が極めて高い場合

⚠ 警告 指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険があり得る場合

⚠ 注意 指示を守らないと、怪我や傷外事故が生じる可能性がある場合

注意 (⚠ マークなし) 指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

4. 安全のための注意事項

4.1 一般的な注意事項

⚠ 警告	● こんな時は、作業をしない。 ○ 過労や病気などで体調が悪いとき。 ○ 薬物を服用しているとき。 ○ 飲酒をしたとき。	
⚠ 注意	● 取扱説明書をよくお読みいただき正しい取扱で安全に作業をしてください。 ○ 取扱い知識の不十分な人には使わせないでください。 ● エンジンの取扱いは別紙エンジン取扱説明書を参照してください。 ● きちんとした服装で作業してください。 ○ 作業を安全に行うため防護具（ヘルメット、保護めがね、安全靴、防振手袋等）を必ず着用し、適切な作業服で作業してください。 ○ 屋外の作業になりますので、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。 ○ 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。 ● 防音保護具を着用してください。 ○ hearing protector（耳栓、イヤマフなどの防音保護具）を必ず着用してください。 ● 常に機械を点検し、ネジ類のゆるみや異常箇所がないか確認し、機械が正常である事を確認してから運転してください。	  

⚠ 注意	● 作業中、異音や異常な振動が発生した場合は、直ちに作業を止めエンジンを停止させ、点検・修理を行い正常な状態を確保してから運転を再開してください。 ● 本機の貼付け銘板（操作方法、警告銘板等）は、安全を守るために非常に重要です。本機を清掃し、常に読みやすくしておいてください。 ● 機体の貼付け銘板（操作方法、警告銘板等）が読みにくくなった場合、新しい銘板に貼りかえて使用してください。 ● 幼児等が触れると危険です。保管方法、保管場所には十分注意してください。 ● 整備する場合はエンジンを停止してから行って下さい。 ● 製造元の許可無き改造や【誤用途、誤使用の警告】に記しています本来の使用目的以外の使用における事故に関しては、一切責任を負いません。	
-------------	--	---

4.2 給油中の注意事項

⚠ 危険	● 燃料を給油する場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。 ● 燃料を補給する時は、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから入れてください。 ● 燃料を補給する時には、周囲に可燃物のない、機体移動しない水平な場所を選び、こぼさないよう注意してください。もし、こぼれたら良く拭き取ってください。 ● 燃料補給中は、火気を絶対に近づけてはいけません。（特にタバコは吸わない。） ● 燃料は、口元一杯まで入れ過ぎると、こぼれる可能性があります。危険です。 ● 給油後は、タンクキャップをしっかりと締め込んでください。	
-------------	---	---

4.3 使用場所、換気に関する注意事項

⚠ 危険	● 室内、トンネル内など換気の悪い場所では使用しないでください。エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており大変危険です。 ● 火気のあるそばでは、運転しないでください。	
-------------	--	---

4.4 作業中の注意事項

⚠ 警告	● エンジンの排気ガスには有害な一酸化炭素等が含まれており危険です。室内やトンネル内などの換気が悪い場所では使用しないでください。 ● 機械を始動したり作業するときは、周囲の人や障害物に対して安全であることを確認してください。 ● 常に足場に注意し、機械のバランスが保てる無理のない安定した姿勢で作業してください。 ● 回転部（ベルトカバー内等）には、手や服などが巻き込まれない様に十分注意してください。 ● 運転中に機械の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は直ちに作業を中止してください。	 
-------------	---	--

⚠ 警告	● マフラーは高温になりますので熱い時は触れないよう注意してください。 ● 機械から離れる場合は必ずエンジンを停止し、ゴムロールに輪留めをし機体が完全に動かない事を確認してください。また機械を移動する場合もエンジンを停止してください。 ● 傾斜地での作業は、大変危険ですので、安全に十分注意してください。 ● 傾斜地に機体を放置しないでください。万一、走り出しますと重大な事故をまねくことになります。	 冷めな 坂道で 手を離すな
-------------	---	--

4.5 リフティング時の注意事項

⚠ 警告	● クレーンによる積込み、積みおろし作業は資格が必要です。クレーンの運転、玉掛け作業の資格のある人が行ってください。 ● 吊上げ時、エンジンを停止してください。 ● 強度が十分なワイヤーロープ等を使用してください。 ● 吊上げる前に、機体のフックを固定しているボルトが緩んでいないこと及び、フックに亀裂などの損傷がないことを確認してください。 ● 一点吊りフックを利用し、真っ直ぐに衝撃をかけないように操作してください。 ● 吊上げた機械の下には絶対に人や動物を入れないでください。 ● 安全の為、必要以上の高さには吊上げないでください。	
-------------	---	--

4.6 運搬及び保管に関する注意事項

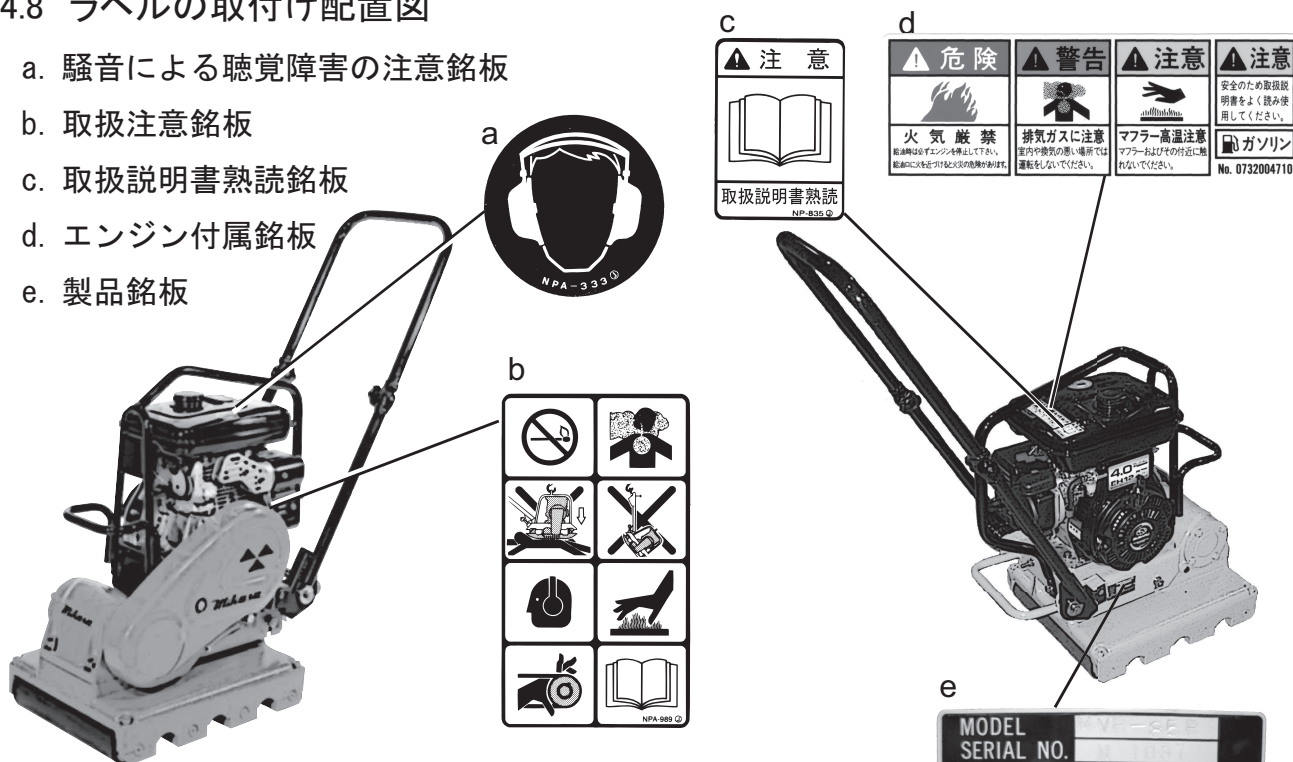
⚠ 注意	● 運搬時エンジンを停止してください。 ● 運搬時は燃料タンクから燃料を抜いてください。 ● 保管時は、ゴムロールに輪留めをし、機械が完全に動かないように固定してください。 ● 機械が動いたり、倒れたりしないようしっかり固定してください。	
-------------	--	--

4.7 整備上の注意事項

⚠ 警告	● 安全を確保するために適切な整備が必要です。特に、ロール系及びリフティング関連の部品の不適切な整備は重大な事故の原因となります。十分注意し、本機を良好な状態に維持してください。 ● 点検は、水平な地面に置き、必要に応じて輪留め等により、機体が移動しないことを確認してから行ってください。 ● 点検は、エンジンを停止してから行ってください。回転部に巻き込まれますと、重大な傷害を負う危険性があります。 ● 機体の温度が下がってから作業を行ってください。特にエンジン停止直後は、マフラーが高温になっており、大火傷をする危険性があります。又、エンジン、エンジンオイルや起振体等も熱くなっていますので、火傷をしないよう十分注意してください。	 エンジン 止めな 冷めな
-------------	--	---

4.8 ラベルの取付け配置図

- a. 騒音による聴覚障害の注意銘板
- b. 取扱注意銘板
- c. 取扱説明書熟読銘板
- d. エンジン付属銘板
- e. 製品銘板

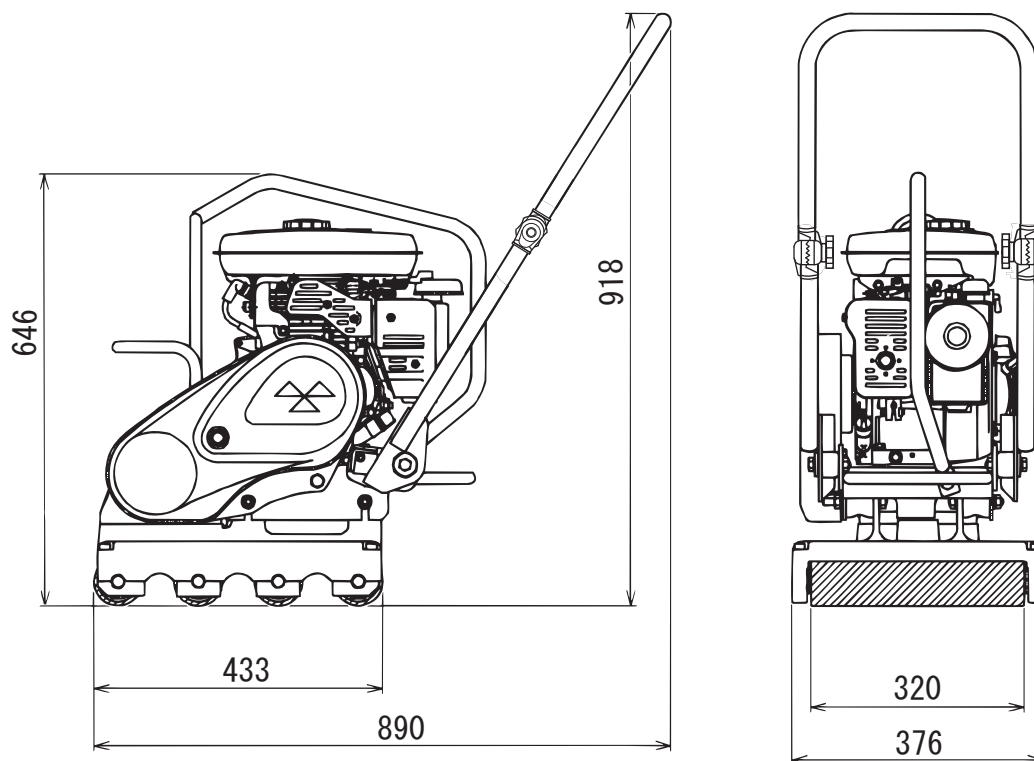


4.9 安全ラベルの絵文字説明

- a. 騒音による聴覚障害に注意
 - ・本機運転中は、必ず耳栓をしてください。
- b. 取扱注意銘板
 - ・火気厳禁
給油時は必ずエンジンを停止してください。給油口に火を近づけると火災の危険があります。
 - ・排ガス中毒に注意
排ガスを吸うと一酸化中毒になるので、換気の悪い場所では運転しないでください。
 - ・吊り上げた機械の下への入り込み禁止
吊り上げた機械の下には絶対に人や動物等を入れないでください。
 - ・ハンドルでの吊り上げ禁止
落下の危険性がありますので、ハンドルでの吊り上げはしないでください。
 - ・騒音による聴覚障害に注意
本機運転中は、必ず耳栓を着用してください。
 - ・高温部接触による火傷に注意
運転中や停止直後に高温部（エンジン、マフラーなど）に触れると火傷する恐れがあります。
 - ・回転部巻き込み注意
回転中は、Vベルトやクランク軸等回転部分に手、身体及び衣服等が触れないように近づかないでください。
 - ・取扱説明書熟読
運転前に必ず取扱説明書を良く読んで、操作内容を充分理解してください。
- c. 取扱説明書熟読
 - ・運転前に必ず取扱説明書を良く読んで、操作内容を充分理解してください。
- d. エンジン付属銘板
 - ・火気厳禁
給油時は必ずエンジンを停止してください。給油口に火を近づけると火災の危険があります。
 - ・排ガスに注意
室内や換気の悪い場所では運転をしないでください。
 - ・マフラー高温注意
マフラーおよびその付近に触れないでください。
 - ・使用燃料はガソリン
- e. 製品番号銘板
 - ・製品型式名、機体番号、重量、エンジン出力、CEマークが表記されております。

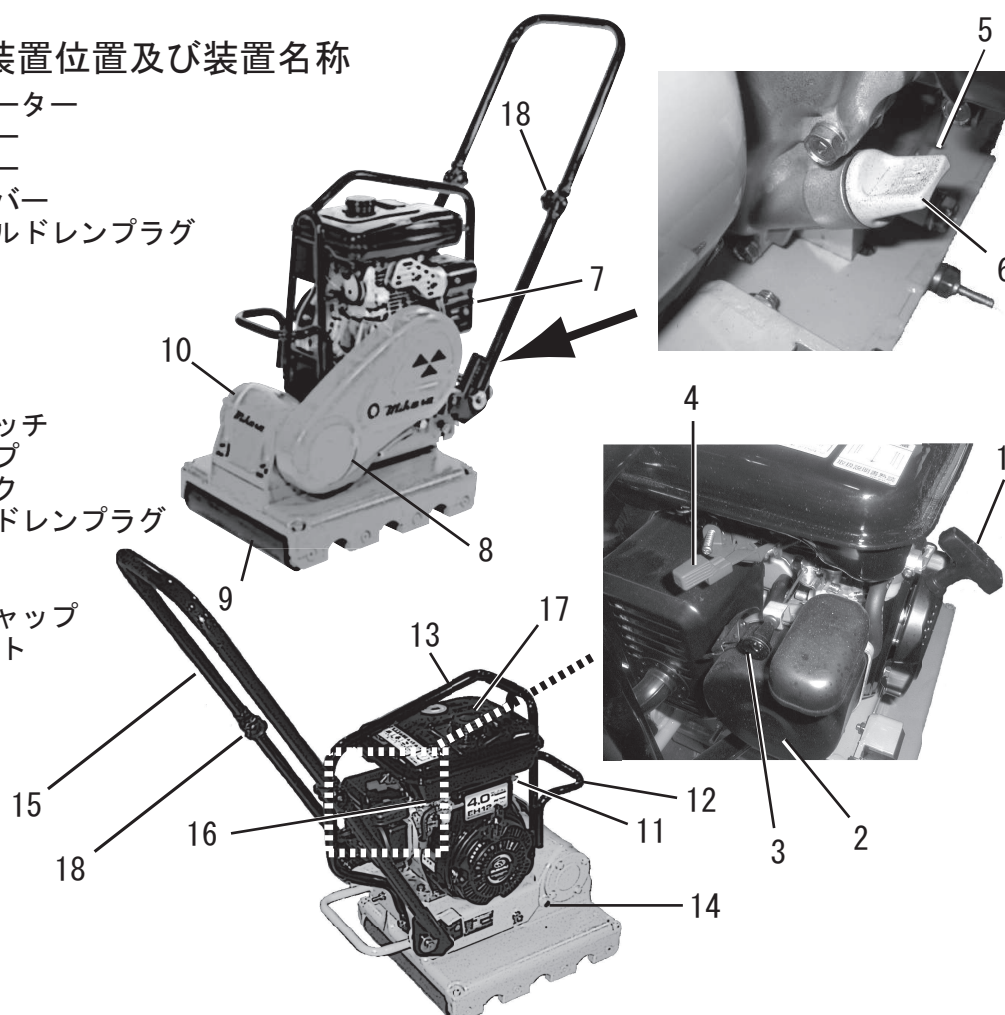
5. 概観図

5.1 概観寸法図



5.2 コントロール装置位置及び装置名称

1. リコイルスターター
2. エアクリーナー
3. チョークレバー
4. スロットルレバー
5. エンジンオイルドレンプラグ
6. オイルゲージ
7. マフラー
8. ベルトカバー
9. ゴムロール
10. 起振体
11. ストップスイッチ
12. ハンドグリップ
13. 吊り上げフック
14. 起振体オイルドレンプラグ
15. ハンドル
16. 燃料コック
17. 燃料タンクキャップ
18. グリップボルト



6. 仕 様

6.1 本 体

型 式		MVB-85
機体寸法	全 長	890mm
	全 幅	376mm
	全 高	918mm
ロール寸法	ロール径	73mm
	ロール長さ	320mm
	ロール数	4本
性能	振動方法	一軸偏心式
	振動数	93Hz(5,600V.P.M.)
	遠心力	10.1kN(1,030kgf)
起振体オイル容量		0. 14 L(140cc)
エンジンセット		3,600m ⁻¹
回転数		(3,600r.p.m.)
装備質量		92kg

6.2 エンジン

名称及び型式	ロビンEH12-2D
機関型式	空冷4サイクルガソリンエンジン
行程容積	121mL (121cc)
最大出力	2.6kw/3,600m ⁻¹ (3.5PS/3,600r.p.m.)
冷却方式	強制空冷式
使用潤滑油	自動車用エンジンオイル SAE # 20～# 30(寒冷時10W-30)
潤滑油量	0. 6L (600cc)
使用燃料	自動車用無鉛ガソリン
燃料タンク容量	約 3.6L(3,600cc)
使用点火栓	NGK BR6ES

単位は、計量法の改正に従い S I 単位を使用しています。
() 内に、従来単位での値を併記しています。

7. 運転前点検



エンジンを停止した状態で点検を行ってください。

回転部に巻き込まれますと、重大な傷害を負う危険性があります。機体を水平な場所に置き、機体が動かない事を確認してから、点検してください。

作業前各部点検

点検箇所	点検項目
外観	傷、ゆがみ
エアクリーナ	汚れ、傷、変形
ボルト、ナット類	緩み、脱落
起振体用Vベルト	傷、テンション
起振体オイル	汚れ、油量
燃料タンク	漏れ、油量、汚れ
エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ
燃料系統	漏れ、傷、緩み
リフティングフック	傷、変形、亀裂、破損
防振ゴム	傷、変形、亀裂、破損

7-1 各部をきれいに掃除し、泥、ホコリのないよう手入れしてください。
特にロールの汚れ、エンジンの冷却風入口、気化器およびエアークリーナーの周辺はきれいにしてください。

7-2 各部の締付けネジがゆるんでいないか確かめてください。
振動のためネジがゆるんでいると大きな故障のもととなり、破損が生じた場合は思わぬ怪我の恐れがあります。

中折れハンドルを任意の位置で固定します。その際、グリップボルトが緩んでいない事を確かめてください。



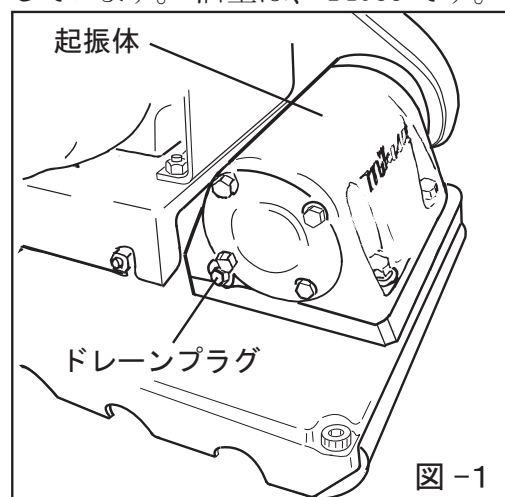
7-3 Vベルトのゆるみを点検してください。
張りの具合は両軸の中間のところを強く指で
押して 10 ～ 15mm 位たわむように張ってあ
れば正常です。

Vベルトがゆるんでいますとエンジンの力の
伝達が悪く、遠心力が少くなりVベルトの損
耗が早くなります。また発生する輻圧力が
少いのでエンジンの回転を上げると不整振
動が起きて故障の原因となります。
逆にVベルトを張り過ぎると、機体上部の振
動が大きくなり機体が破損する原因となつた
り、手元の振動が大きくなりVベルトの寿命
も短くします。

Vベルトは、A-31(1本)を使用しています。

7-4 機体を水平にして起振体の給排油のプラグ
をはずし、潤滑油が口元まで入っているか
確かめてください。(図-1)

潤滑油はエンジンオイル #10W-30 を使用
しています。油量は、140cc です。



7-5 燃料タンクへ燃料を満たしてください。
燃料は自動車用無鉛ガソリンです。
燃料を入れる場合は必ずフィルターを通
して濾過しながら入れてください。

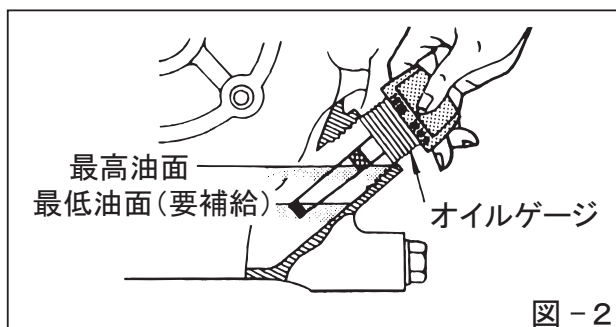
⚠ 危険 燃料補給中は絶対に煙草を吸わ
ないでください。
火傷を含む重大な危険の恐れが
あります。

⚠ 危険 燃料を補給する時には周囲に可
燃物のない場所を選び、燃料を
こぼさぬ様注意して補給してくだ
さい。もしこぼれたら良く拭き取
ってください。

⚠ 危険 エンジンをかけたままでの給油を
してはいけません。
火災の危険があります。

7-6 エンジンを水平にしてオイルを点検し不
足している時は補充してください。エン
ジンオイルは表のものをご使用ください。
(図-2)

	温 度	使用オイル (SC 級以上)
夏	25℃以上	SAE #30
春・秋	25℃—10℃	SAE #30,#20
冬	10℃—0℃	SAE #20
	0℃以下	SAE #10



7-7 燃料パイプの取付部がゆるんだり、損傷
してないか確認してください。

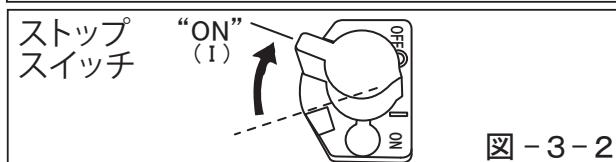
注意 ゴムロール及び防振ゴムには、オイル
やガソリンを付着させないでください。
ゴムが膨潤し劣化します。
付着した場合は、直ぐに清掃してください。

8. 運 転

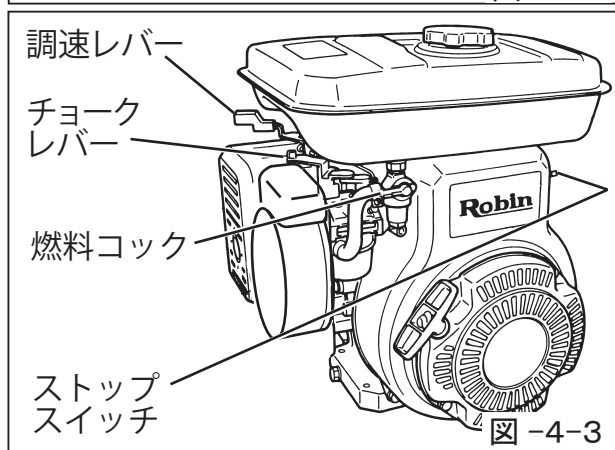
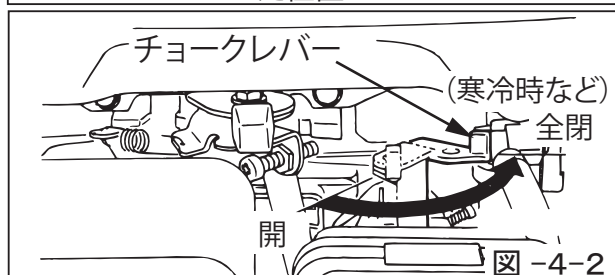
⚠ 危険 エンジンの排ガスは、一酸化炭素
が含まれており、大変危険です。
換気が悪い所では使用しないでくだ
さい。

8.1 始 動

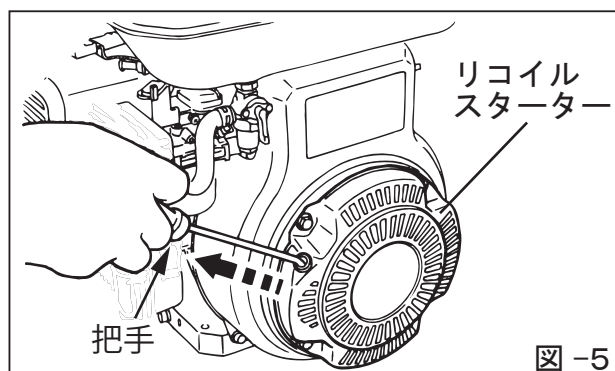
1. 燃料コックのレバーを下にして燃料を通し
ます。(図-3-1)
2. ストップスイッチを運転 (I) 側にまわします。
(図-3-2)



3. 気化器のチョークレバーを閉じ調速レバーを低速（L）から高速（H）の方向に約 1/3 開いた位置ににします。寒いときはチョークレバーを全閉にしてください。（図 -4-1）また、うまく始動しなかった場合には、いつまでもチョークレバーを全閉のままにしておきますと燃料の吸込み過ぎとなりますので半開にしてください。（図 -4-2）



4. リコイルスターター把手を握り少し引くと軽く手ごたえがあります。其処から勢よく引張ってください。この時、ロープをあまり引張り過ぎますとロープを引抜くおそれがありますから御注意ください。（図 -5）



5. エンジンが始動したら爆発音を聞きながらチョークレバーを徐々に戻し全開にします。

始動後は調速レバーを低速（L）の位置に戻し、必ず 1 ～ 2 分間低速で暖機運転を行ないます。特に寒冷時には必ず実行してください。この間にガス洩れ異常音がないか注意してください。

8.2 運 転

1. 調速レバーを急激に開きますと、ブロックプレートは振動を始めます。回転をゆっくり上げるとクラッチがスリップします。調速レバーの開閉はためらわずに一気に操作してください。
2. 作業はハンドルを押し引きし前後進させインターロッキングブロックを平らに仕上げてください。
3. 運転を止める時は調速レバーは一気に戻してください。

⚠ 危険 ・ 傾斜地での作業は大変危険です。安全に十分注意してください。

⚠ 危険 ・ 機体の上に重しを載せて作業をしてはいけません。機体を損傷させる恐れがあると共に、機体のバランスが崩れ、重しが落下飛散し思わぬ損傷などの恐れがあります。

⚠ 危険 ・ 人を乗せて作業をしてはいけません。身体が大きな振動を受けると共に、バランスを崩してロールに挟まれたり、踏まれたりして思わぬ怪我をする危険があります。

⚠ 危険 ・ 十分に締め固まった路面や大き過ぎたり重過ぎるインターロッキングブロックを作業した場合は、機体の振動が大きくなり機体の損傷を早めると共に、手元の振動も大きくなり長時間の作業は振動病の危険があります。

9. 停 止

1. 作業を止めてエンジンを停止する時には調速レバーを戻し、低速回転で3～5分間程エンジンを廻してエンジンの温度が下がってから、ストップスイッチを停止(O)側にまわしてください。
エンジンが熱いうちに停めると、シリンダー内壁の油膜が焼けて摩耗を早めるなどの悪い結果を生じます。



2. 燃料コックのレバーを閉じてください。

- ⚠ 警告** ・ 機体を離れる場合は、エンジンを停止させ、輪留めをかけ、機体が動かないことを確認してください。
- ⚠ 警告** ・ 傾斜地の機体を放置しないでください。万一、走り始めますと大変危険です。

10. 手入れと保存

- ⚠ 警告** ・ ブロックプレートの手入れは必ずエンジンを停止させてから行なって下さい。
- ⚠ 警告** ・ 回転部に巻き込まれますと、重大な障害を負う危険性があります。
- ⚠ 警告** ・ ブロックプレートの手入れ及び保存をする場合、機体を水平な場所に置き、必要に応じて輪留め等を使用し機体が移動しない事を確認してから行ってください。
- ⚠ 警告** ・ 機体の温度が下がってから作業を行ってください。
特に、エンジン停止直後のマフラーは高温になり火傷をする危険性があります。

各個所の泥、ホコリ、油等はきれいに掃除してください。エアークリーナーを点検して特によごれがひどい場合にはこれも掃除してください。また油漏れなどの有無にかかわらず各締付部は増締めをしてください。
ロールについた泥や汚れはきれいに取除いてください。

注意 ゴムロールの硬質ゴム部にガソリン、オイル及びシンナー等の溶剤を付けないでください。
ゴム部が膨潤し劣化します。
汚れがひどい場合は、湿った布またはゴムを侵さないパーツクリーナー等で良く拭き取ってください。

- 工事が終って長期間保存する場合は
- ① 燃料タンク、燃料パイプ、気化器の燃料をきれいに抜き取る。
 - ② 点火栓をはずしてエンジンオイルを数滴シリンダ内に流し込み、数回手回しして内部に充分ゆきわたらせる。
 - ③ ゴム部を除く外側は油をひたした布で清掃し、直射日光のあたらない湿気やホコリが無く、高温にならないところにカバーをかけて格納する。
 - ④ ゴムロールに輪留めをし、機械が完全に動かないように固定してください。

11. 定期点検と調整

11.1 各部点検、保全スケジュール表

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日（作業前）	外観	傷、ゆがみ	
	エアクリーナ	汚れ、傷、変形	
	ボルト、ナット類	緩み、脱落	
	起振体用Vベルト	傷、テンション	
	起振体オイル	汚れ、油量	エンジンオイル
	燃料タンク	漏れ、油量、汚れ	ガソリン
	エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	燃料系統	漏れ、傷、緩み	
	防振ゴム	傷、変形、亀裂、破損	
	リフティングフック	傷、変形、亀裂、破損	
20時間	エンジンオイル	初回のみ20時間にて交換	エンジンオイル
一週間毎 （50時間毎）	エアクリーナ	清掃	白灯油
	点火栓	清掃、ギャップ調整	
	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
200時間	起振体オイル	交換	エンジンオイル
2年毎	燃料ホース	交換	

エンジン関係の点検及び整備の詳細につきましては、付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

11.2 各部点検、保全作業内容

● 毎日の手入れ

- 各個所の泥、ホコリ、油等はきれいに掃除してください。エアークリーナーを点検して特によごれがひどい場合には合せて掃除してください。また油漏れなどの有無にかかわらず各締付部は増締めをしてください。ロールについた泥や汚れはきれいに取除いてください。
- ガソリンやオイルが防振ゴムやゴムロールに付着した場合は、直ぐに清掃してください。
付着したままに放置されるとゴム部が膨潤し、変形・劣化します。

● 一週間毎の手入れ（50 時間毎）

- エアークリーナーより、エレメントを抜き取り、洗油（白灯油）で洗浄後、ガソリン 3: エンジンオイル 1 の割合の混合油に浸し、外側の一次エレメント（スポンジ）は固く絞り、内側の二次エレメントは、よく振り切ってから取付けます。
- 点火栓を取りはずし掃除して火花間隔を 0.5 ～ 0.6mm に調整します。

● 一週間毎の手入れ（50 時間毎）

- エンジンが暖まっているうちにクランクケース内の古いオイルを完全に抜き取り新しい良質のオイルと交換してください。エンジン停止直後は、オイル・機体が熱くなっています。火傷をしない温度になっている事を確認した後に交換作業を行ってください。
注）エンジンが新しいときは最初の 1 回目は 20 時間で交換してください。

● 200 時間毎の手入れ

- 起振体の潤滑油を排出し、新しい潤滑油と入替えてください。

● 燃料パイプは、2 年で交換してください。

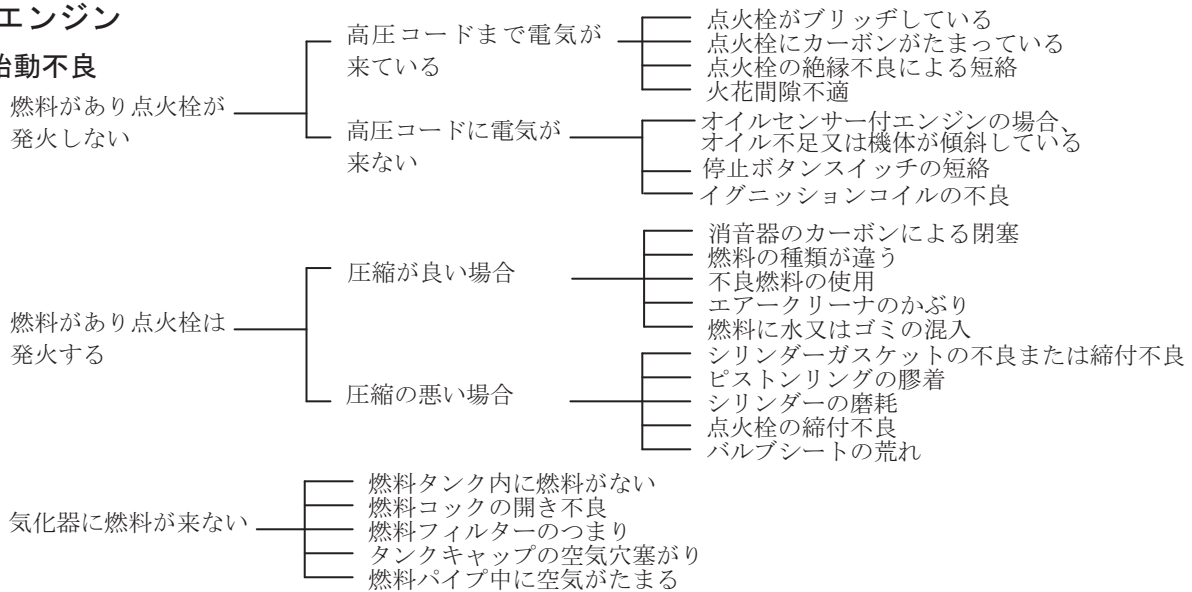
- 尚、点検時漏れ等のあるものは 2 年を待たずに交換してください。

※ 部品、パーツリストおよび修理に関しては販売店もしくは三笠部品サービスセンターに御問い合わせください。

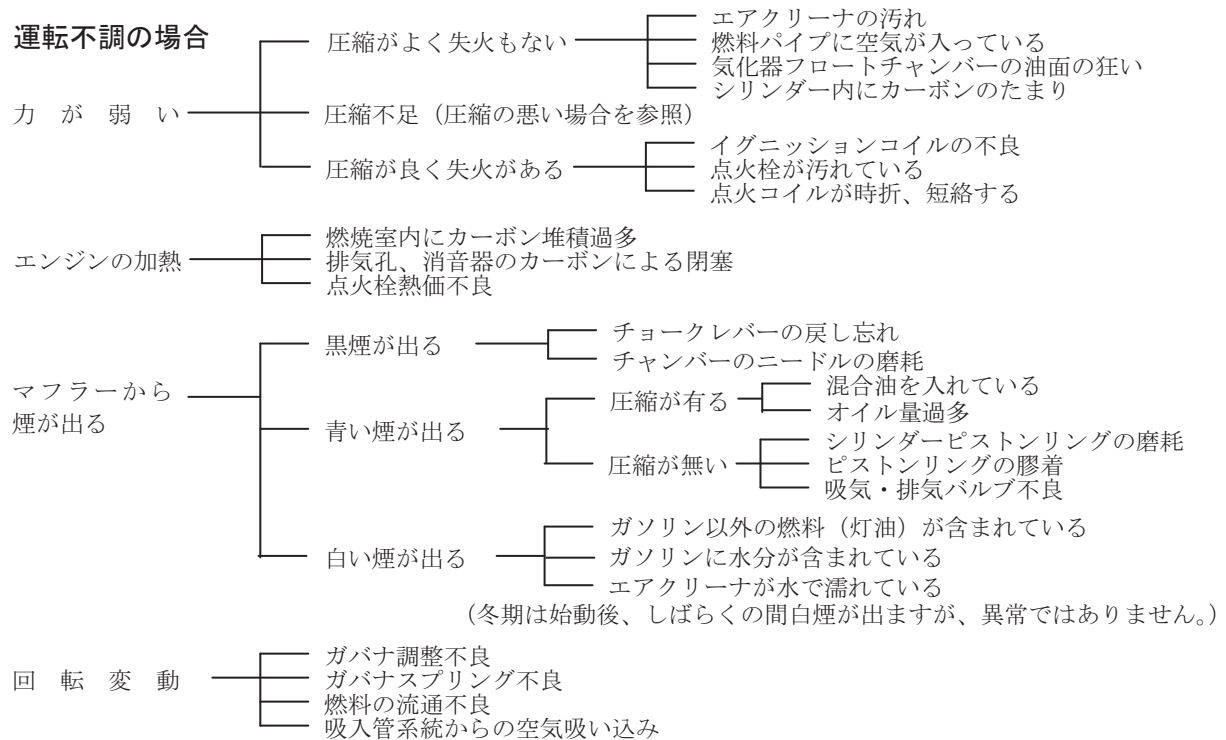
12. トラブルシューティング

1. エンジン

(1) 始動不良



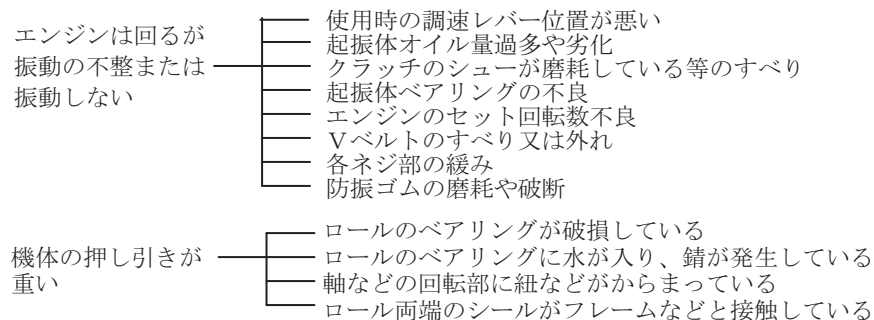
(2) 運転不調の場合



(3) リコイルスターターの動きが悪い

- 回転部のゴミ詰まり
- スパイラルスプリングのへたり

2. 本 機





MIKASA SANGYO CO.,LTD.

HEAD OFFICE

NO. 4-3. 1-CHOME, SARUGAKU-CHO, CHIYODA-KU
TOKYO, JAPAN



三笠産業株式会社

本 社	東京都千代田区猿楽町 1丁目 4番 3号 電話 03-3292-1411 FAX 03-3233-0530	〒101-0064
大 阪 支 店	大阪市西区立売堀 3丁目 3番 10号 電話 06-6541-9631 FAX 06-6541-9660	〒550-0012
札 幌 営 業 所	札幌市白石区流通センター 6丁目 1番 48号 電話 011-892-6920 FAX 011-892-6344	〒003-0030
仙 台 営 業 所	仙台市若林区卸町 5丁目 1番 16号 電話 022-238-1521 FAX 022-238-0331	〒984-0015
新 潟 出 張 所	新潟市西区小新 2丁目 16番 11号 電話 090-7422-8801 FAX 03-3233-0530	〒950-2023
北 関 東 営 業 所	館林市近藤町 178番地 電話 0276-74-6452 FAX 0276-74-6538	〒374-0042
長 野 出 張 所	長野市稲里町中央 3丁目 23番 7号 E-3 電話 080-1013-9542 FAX 03-3233-0530	〒381-2217
静 岡 出 張 所	静岡市駿河区下川原3丁目25番51号 B-101 電話 090-2413-5953 FAX 03-3233-0530	〒421-0113
中 部 営 業 所	名古屋市中村区則武 1丁目 9番 4号 電話 052-451-7191 FAX 052-451-0315	〒453-0014
金 沢 営 業 所	金沢市駅西新町 3丁目 16番 30号 電話 076-201-8611 FAX 076-201-8612	〒920-0027
中 国 営 業 所	広島市安佐南区祇園 3丁目 45番 11号 電話 082-875-8561 FAX 082-875-8560	〒731-0138
四 国 出 張 所	高松市今里町 6番 2号 電話 087-868-5111 FAX 087-868-5551	〒760-0078
九 州 営 業 所	福岡市博多区博多駅南 5丁目 22番 5号 電話 092-431-5523 FAX 092-431-5707	〒812-0016
南九州出張所	鹿児島市宇宿町 2222番地 6号 102 電話 080-1013-9558 FAX 092-431-5707	〒890-0074
沖 縄 出 張 所	那覇市安謝 1丁目 18番 10号 パークサイドM201号 電話 090-7440-0404 FAX 098-867-1167	〒900-0003

《部品サービスセンター》

部 品 課	春日部市緑町 3丁目 4番 39号 電話 048-734-2401 FAX 048-736-6787	〒344-0063
サ ー ビ ス 課	春日部市緑町 3丁目 4番 39号 電話 048-734-2402 FAX 048-736-6787	〒344-0063

・ 館林物流センター ・ 技術研究所 ・ 館林工場 ・ 春日部工場